

## 2 道南連携地域（渡島総合振興局、檜山振興局）

- ① 道南スギ等の利用促進（渡島・檜山）
- ② ほっかいどう企業の森林づくり協定調印式（渡島）
- ③ 「ゼロカーボンひやま」の七夕・クリスマスイベントの開催（檜山）



### ① 道南スギ等の利用促進（渡島・檜山）

道南地域に生育するスギ等の人工林は建築材等への利用が可能な資源として成熟している一方、スギをはじめとする地域材が丸太のまま道外等へ出荷されていることから、地域における消費拡大を図る取組を進めています。

渡島総合振興局では、令和2年度から学生や地域の様々な機関等と連携し、地域材の魅力発信や付加価値を高めた木材の地域に根ざしたブランド化に取り組む「みんなで広げる木づかいプロジェクト！」を展開しており、令和4年度は、森町の高等学校の生徒を対象に校舎空間の木質化を検討・実践するワークショップを開催しました。ワークショップでは、生徒が提案したアイデアとデザインを基礎にテーブルや椅子等の木製什器を製作し、生徒用玄関の木質化を進めることにより、地域の木材の魅力を発信し、道南スギなどの利用促進を図りました。

また、檜山振興局では、令和2年度から道南スギの利用拡大や、林業の担い手の確保・育成などを推進する「檜山の林業再生支援事業」に取り組んでおり、道南スギの利用拡大に向けたPRとして体験イベントを実施しています。

令和4年度は、地域材であるスギを広く普及し、身近な物にも活用してもらえよう、江差町内の保育園児童を対象にスマートフォンスタンドの製作体験を実施しました。地域の方々に道南スギを身近な木材として認知してもらい、広く活用されるよう今後もPRを継続していきます。



ワークショップの実施風景



カウンターテーブルの製作



スマートフォンスタンド製作体験

### ② ほっかいどう企業の森林づくり協定調印式（渡島）

渡島総合振興局では、令和5年2月、松前町役場において（株）菅原組と松前町との「ほっかいどう企業の森林づくり」に係る協定調印式を行いました。

松前町が活動フィールドを提供し、（株）菅原組が社会貢献活動として森林整備を行う協定内容となっており、地元企業による本制度の活用は渡島管内では初の取組となります。

令和5年春からは、植樹のほかに下草刈り等の育樹も予定されており、また、町内の学校への自然体験の場としても活用し、身近な自然に目を向けてもらうツールとして進めていくこととなっています。

道では、木育活動に取り組む企業・団体が増えてきていることから、今後も、積極的に森林所有者と企業のマッチングを図り、企業による森林づくりを進めていきます。



調印式

### コラム 檜山の森づくり植樹祭 in いまかね（檜山振興局）

檜山管内の自然豊かな森・川・海を次世代に引き継ぐため、地域住民による協働の森づくりを推進することを目的に、平成10年から管内各町が持ち回りで実行委員会を務め、「檜山の森づくり植樹祭」を毎年開催しています。

令和4年5月に今金町で開催した第24回の植樹祭は、新型コロナウイルス感染症対策のため参加人数を制限した中、檜山管内の各町から合わせて67名が参加し、ヒノキアスナロ40本、ミズナラ300本、合計340本の苗木を植えました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、参加者は植樹を通して緑化活動・森林整備への理解を深めることができました。

なお、植樹祭の開催にあたっては、平成20年以降、サッポロビール（株）より「北海道森と緑の会檜山支部との森林づくり活動に関する協定」に基づく助成金の支援と飲料の提供が行われています。



指導林家による植樹指導



植樹活動



記念撮影

### ③ 「ゼロカーボンひやま」の七夕・クリスマスイベントの開催（檜山）

2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、檜山振興局では、令和3年度から檜山地域の自治体、民間事業者・団体等で構成する「ひやまゼロカーボンネットワーク」において「環境教育（木育）」に取り組んでいます。

令和4年度は、七夕とクリスマスに合わせて、江差町内の幼稚園（認定こども園）と保育園の園児が参加し、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」ことを主体的に考えられる豊かな心を育む木育の取組を初めて行いました。

特に「木」とのふれあいにあたっては、地域性を考慮し、七夕の短冊はスギ材の、クリスマスの装飾はトドマツ材の木製単板を利用しました。

檜山振興局は、今後もイベントの開催などを通して地域に根ざした環境教育（木育）に積極的に取り組んでいきます。

#### 【七イベント】



環境教育（木育）のパネル説明



木製単板による短冊の飾り付け



記念撮影

#### 【クリスマスイベント】



環境教育（木育）のパネル説明



木製単板によるツリーへの装飾



記念撮影

#### 【コラム】 道南圏域木育フェスタの開催（渡島・檜山（総合）振興局）

渡島・檜山（総合）振興局では、木育マイスター道南支部との共催により3年ぶりに「第10回道南圏域木育フェスタ」を開催しました。

令和2年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止を余儀なくされていましたが、関係機関と協議を重ね、感染防止対策を図りながら、森町や地元企業の協力のもと、令和4年9月、森町尾白内グラウンドで木育ワークショップを行うことができました。

参加者は、各出展ブースで木育マイスターからの説明を受けながら、道南スギのキーホルダーづくりでは紙ヤスリがけを、お絵描きコマづくりではのこぎりを使い、熱心に木工体験を行っていました。

今回のフェスタでは、遠方からの参加者を含め約200名の方に参加していただき、子供から大人まで幅広い年代の皆様が木育活動を楽しんでいました。

引き続き、渡島・檜山管内では、木育マイスター道南支部が主体となり、地域の企業や団体と連携しながら、木育の魅力を広く発信していきます。



道南スギのキーホルダーづくり



お絵描きコマづくり



スギの端材で自由に小物づくり

## コラム 渡島管内における林業成長産業化地域創出モデル事業の取組（渡島総合振興局）

渡島地域では、平成 30 年度から令和 4 年度の 5 か年間において、林野庁より「林業成長産業化地域」として地域指定を受け、「林業成長産業化地域創出モデル事業」を実施しました。

本事業では、渡島地域の課題の解決や優位性を活かした取組を進めるため、川上から川下までそれぞれの体制・取組を強化するとともに、それらを一体的・効率的に循環させるため、ICT等の先進技術の導入に向けた取組などを推進し、流通体制の効率化と地域材の高付加価値化に取り組んできました。

川上では、高性能林業機械等の導入促進のほか、スマート林業の普及・定着を図るため、市町村や森林組合、事業者向けの下草刈り機械やコンテナ苗運搬等実演会、ICTハーベスタの試行運転など技術普及に向けた取組を実施しました。

また、川中、川下では、原木の安定的な供給体制の構築のほか、地域材の販路拡大を図るため、首都圏における展示会や地域で開催された各種イベントで道南スギを活用した酒樽等の木製品を展示するなど、地域の林業・木材産業のPRと地域材の高付加価値化を目的としたブランド化の推進に取り組んできました。

今後は、当事業で実施した取組を活かし、引き続き渡島地域における林業・木材産業の成長産業化の実現を図っていきます。



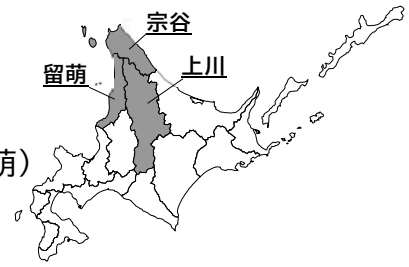
下草刈り機械の実演



道南スギ酒樽の展示

### 3 道北連携地域（上川／宗谷総合振興局、留萌振興局）

- ① 上川地域が一体となった森林認証材の利用促進（上川）
- ② 未来づくり感響プロジェクト  
～森と家具の繋がり普及事業～（上川）
- ③ 留萌地域における森林資源の循環利用に向けた取組（留萌）
- ④ 林業担い手の推進（上川・留萌・宗谷）



#### ① 上川地域が一体となった森林認証材の利用促進（上川）

上川管内では、平成30年6月に市町村、森林組合及び上川カラマツ梱包協議会の会員企業が参画して「上川森林認証協議会」を設立し、令和4年度末現在、管内の認証森林面積は約22万3千ha、COC認証取得事業体は64事業体になっています。

上川総合振興局では、協議会と連携して、森林認証材の利用促進に向けた取組を進めています。

令和4年度は、上川産の森林認証製品を消費者へ届けるために、環境問題や持続可能なビジネスに特に関心が高い木材加工・家具業界等の若手経営者や一般消費者にご参加いただき、協議会の場において、認証材の流通課題やCOC認証取得を促す対策について意見交換を行いました。

また、一般消費者に認証制度への理解を深めてもらうため、上川地域の取組と認証製品を紹介するPR動画を制作して公表するとともに、市町村における認証材の利用を図るため、林務担当・建築担当職員を対象に説明会を開催しました。説明会においては、（地独）北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場から、木造建築の実現のためのプロセスや木材の調達方法などの説明のほか、SGEC森林認証材を活用したプロジェクト

認証の先進事例として、音更町から「道の駅おとふけ」の取組、当麻町森林組合から町内の住宅20棟におけるプロジェクト認証の一括取得の取組について紹介を行いました。

さらに、森林認証に取り組む事業者の拡大を図るため、素材生産業者や製材工場などの事業者向けに森林認証取得テキストを作成して配付したほか、森林室では、森林認証を受けた道有林から生産された原木を安定供給することで、認証材を活用した地域づくりを推進しています。

#### ② 未来づくり感響プロジェクト～森と家具の繋がり普及事業～（上川）

上川総合振興局では、中高生が、“旭川家具の魅力”と“家具・建具製造業、林業の誇りや楽しさ”を学び、将来の進路の候補として、これらの業種が検討される機会を創出するため、平成30年度から、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用した「木のまち旭川エリア『未来づくり感響プロジェクト』」に取り組んでいます。

平成30年度から令和2年度までは、旭川エリアの中高生へ効果的な授業が行えるよう、林業事業者、製材事業者、家具職人、デザイナー、木育マイスター及び教育関係者で構成する検



若手経営者との意見交換



市町村職員への説明会  
（現地とオンラインで開催）

討委員会を立ち上げ、旭川大学高等学校1年生を対象としたトライアル授業を行いながら、学習プログラムやテキスト、木材標本などの「学習ツール」を作成し、令和3年度からは、市内高校と連携した授業の実施と高校教諭への学習ツールの普及を実施しております。

令和4年度は、学習ツールの検証として、旭川大学高等学校の2年生を対象に11回にわたり、森林・林業や家具産業、デザインについての授業を行い「森と家具の繋がり」を学んだ後、鋸（のこぎり）や鉋（かんな）等を使用しながら自分に合った箸と箸箱を製作しました。

また、高校教諭への学習ツールの普及では、北海道高等学校理科学研究会会員の教諭を対象に、家具向けの広葉樹も生産可能な旭川市内の里山で理科学的な視点からの森林活用について説明を行いました。



高校生への授業



箸製作



高校教諭への説明

**コラム** 「ゼロカーボンクリスマスツリー」 自転車発電でイルミネーション点灯体験を実施  
(上川総合振興局)

上川総合振興局では、「ゼロカーボン北海道」の実現に資する道民の取組拡大を図るため、令和4年12月に上川合同庁舎1階カムイミントラホール（ロビー）において、間伐材のクリスマスツリーやゼロカーボン北海道を紹介するためのパネル展示、自転車発電によるツリーイルミネーションの点灯体験を実施しました。

展示初日には、地元の永山太陽認定こども園の園児が製作したオーナメントをツリーに飾り付けるとともに、自転車発電によるイルミネーションの点灯式を行いました。期間中は、来庁者等200名以上がホールを訪れ、ゼロカーボン北海道につながる間伐や節電の大切さについて道民に広めることができました。



園児への間伐の説明



園児による飾り付け



点灯式  
(上川総合振興局長が発電)

**コラム 「すてき！びふかの秘境保全プロジェクト」の取組（上川総合振興局）**

美深町の道有林内に位置する「松山湿原」は日本最北の高層湿原であり、環境省が選定する「日本の重要湿地 500」の一つとして年間3千人以上の利用者が訪れ、地域の重要な観光資源となっています。しかし、近年は木道や木製案内板などが老朽化し、その更新が課題となっていました。

こうした中、平成31年2月に、上川総合振興局は美深町と（株）SUBARUの3者で環境保全と地域活性化に向けた連携協定を締結し、（株）SUBARUから地方応援税制（企業版ふるさと納税）の支援を受け、令和元年度から3か年で松山湿原の木道や木製案内板の整備を進めてきました。令和4年度からは、さらに3か年継続されることとなり、美深町仁宇布地区にある天竜沼周辺の木道整備と、激流の滝木製展望台の防腐処理による長寿命化を実施しました。令和5年度以降は、こうした施設を小中学生の森林環境教育や各種見学ツアーのフィールドとして提供し、木育の推進に取り組みながら利用者の増加につなげていきます。



天竜沼木道



激流の滝木製展望台

**③ 留萌地域における森林資源の循環利用に向けた取組（留萌）**

留萌地域では、管内の人工林の4分の3を占めるトドマツ資源が利用期を迎えており、森林資源の循環利用を着実に推進することが重要な課題となっています。このため、留萌地域の行政と林業・木材産業関係者で組織する「留萌流域森林・林業活性化協議会」では、「留萌地域における森林資源の循環利用推進計画」に基づき、計画的な森林整備と留萌材の利用推進に取り組んでいます。

この取組の一環として、管内の4森林組合と8市町村及び幌延町で構成される「るもい森林認証協議会」では、平成27年から、豊かな自然環境の保全と持続可能な森林経営を両立させるシステムとして森林認証の取得に向けた調査・研究に取り組み、令和4年6月、長年の目標であったSGEC／PEFC森林認証を取得しました。また、12月には道有林留萌管理区でも同認証を取得し、留萌地域では新たに約7万haの認証を取得することとなりました。

また、ゼロカーボン北海道の実現や地球温暖化防止対策の観点から、留萌産認証材の利用推進に向けて地域住民の気運の醸成を図るため、管内市町村と連携しながらキャラバン方式によるパネル展を開催しました。さらに、地域における森林認証取得の取組や、木のぬくもりをPRするためのイベント「森の展覧会」を実施しました。

今後も留萌地域における森林資源の循環利用が着実に図られるよう、地域林業関係者と連携して取組を進めていきます。



森の展覧会



森林認証取得記念式典



市町村パネル展キャラバン

## コラム 今年もやります！「森の展覧会」～森林認証の普及PR～（留萌振興局）

留萌振興局では、例年、管内の森林づくりに関する取組を紹介してきたパネル展の内容を刷新し、令和3年度より「森の展覧会」として実施しています。

令和4年度は、振興局1階道民ホール全体を活用し、6月及び12月に留萌地域で取得した「森林認証」をテーマに開催しました。

庁舎正面の大階段では、錯視トリックの手法を用いてSGEC/PEFC相互認証の巨大PEFCマークを描きました。また、森林認証とは何か、留萌地域でどんな取組をしているのか等をわかりやすく解説したパネルを作成し、展示しました。

ホール吹き抜けでは、初山別村で撮影した「夏のトドマツ林」、上士幌町出身の写真家佐々木育弥さんが中川町で撮影した「KIKORI SPRING」の写真を展示し、森林・林業の魅力を発信しました。

また、令和4年度からは「デジタル×アロマ森林浴」として、庁舎の一室に人工芝を敷き、ディフューザーでトドマツ精油を拡散し、壁一面に林業の現場や森林散策の動画を上映するなど、気軽に森を感じてもらえる空間をつくりました。

さらに、令和3年度好評だった木製遊具コーナーに加え、森林室による木育コーナー「木のしおり作り」等も提供しました。

留萌振興局では、道民がより身近に森林を感じたり林業に触れたりして「林業を楽しむ」機会を提供することで、地域振興に貢献しながら森林資源の循環利用の推進を図る取組を進めていきます。



巨大PEFCマーク



「KIKORI SPRING」



木のしおり作り

### ④ 林業担い手の推進（上川・留萌・宗谷）

道北連携地域では、上川・留萌・宗谷の各地域において、地元の高校や大学、林業事業者、市町村、森林管理署などが参画する「地域林業担い手確保促進協議会」を設置して、担い手対策に取り組んでいます。

令和4年度の取組として、上川総合振興局では、旭川農業高等学校をはじめ、管内の普通科高等学校、自衛隊退官予定者に向けた、林業の仕事ガイダンスや高性能林業機械等による現場作業の視察、機械の操作体験などを実施しました。また、「上川地域林業担い手確保推進協議会」の部会である「上川林業ワカモノ会議」の研修会においては、経営者・管理職を対象に、若手林業従事者のモチベーションアップに繋げるため、能力評価制度導入に向けたワークショップを実施しました。



能力評価制度ワークショップ  
（上川）

また、北森カレッジの「地域見学実習」については、生徒たちが各地域の特性の違いを理解できるよう、初めての試みとして3振興局が9月に3日間の日程でリレー方式で行いました。



留萌振興局では、「留萌地域林業担い手確保推進会議」と北森カレッジが連携し、留萌高等学校において、林業に関心のある生徒を対象に北森カレッジの説明会を開催したほか、同カレッジの1年生を対象に、3振興局で連携して実施した「地域見学実習」や、将来の就業イメージの構築や社会人としての心構えを学ぶため、短期のインターンシップの受入れを実施しました。

宗谷総合振興局では、「宗谷地域林業担い手確保推進協議会」が、高校や大学において室内講義を実施する「学校訪問」や高校の進路ガイダンスのブース出展を行う「企業説明会」などを開催しました。学校訪問では、動画等により林業・木材産業についての説明を行ったほか、北森カレッジの職員を招き、学院の紹介を行いました。

今後も引き続き、若い世代に林業・木材産業の仕事を積極的にPRする取組を進めていきます。



地域見学実習  
(豊岬木材工業(株))(留萌)



学校訪問(育英館大学)(宗谷)

### コラム 始動！新・森林資源の循環利用推進計画（留萌振興局）

トドマツ人工林資源が利用期を迎えている中、「留萌流域森林・林業活性化協議会」の下部組織である「留萌地域における森林資源の循環利用推進分科会」では、平成30年に「留萌地域における森林資源の循環利用推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、適切な間伐や計画的な主伐・再造林、公共建築物や木質バイオマスエネルギーへの地域材の利用推進に取り組んできましたが、取組を通じて次のような課題が浮かび上がってきました。

- ・資源の成熟に伴って伐採量は増加すると想定していたが、担い手不足や採算性の問題などから、思うように主伐・再造林が進んでいない。
- ・本道の森林吸収量の目標達成のためには、条件の良い森林での循環利用を進めるだけでなく、森林環境譲与税等を活用し、手入れの行き届いていない森林での整備を推進することも必要不可欠。

そこで、現行推進計画の期間満了に合わせ、これらの課題を踏まえた新推進計画を令和4年10月に策定しました。

今後は新計画に基づき、留萌地域における原木の安定供給体制確立のための方策の検討や、森林環境譲与税等の活用による条件不利地の森林整備、留萌産森林認証材の利用促進に向けた取組を進めていきます。

## コラム 「ほっかいどう企業の森林づくり」の取組（留萌振興局）

留萌振興局と「読売リサイクルネットワーク\*（以下「YRN」という。）」は、道有林をフィールドとして、留萌管内では初となる「ほっかいどう企業の森林づくり」に関する協定を令和4年8月に締結しました。

協定調印式とあわせて、留萌合同庁舎でYRNの活動や「ほっかいどう企業の森林づくり」の概要を紹介するパネル展示を行いました。

10月には、小平町の道有林で「読売の森」植樹祭を実施し、YRNと留萌振興局、森林整備の施業を受託した留萌地方林業協同組合など関係者約20名が参加しました。

留萌振興局は、今後も企業等の環境意識の高まりなどを踏まえ、道民と企業等が連携した森林づくりを進めます。



協定調印式



パネル展示



「読売の森」植樹祭

※読売リサイクルネットワーク：読売新聞東京本社、読売新聞販売店、古紙回収業者で運営する古紙回収推進組織